

平成30年7月10日

伊万里市長
深浦弘信様

ふるさと自然の会
会長 川内野善治

世知原の自然と生活環境を守る会
会長 藤田 信行

伊万里市再生可能エネルギービジョンに記載された 大型風力発電プロジェクトについての要望書

現在、長崎県と佐賀県の県境に位置する国見山周辺において、貴市の「再生可能エネルギービジョン」に記載された、(株)エコ・パワーによる大型風力発電建設が計画されています。

この計画に隣接する佐世保市世知原町国見山一帯は希少な動植物が生息する県内でも有数の自然の宝庫です。国際的にも注目されるタカ類の渡りのルートにも当たり、北松県立公園に指定されるなど佐世保市民にとって極めて重要な自然保護地域です。

ふるさと自然の会は永年この地域で数々の生物調査や環境保護、また行政とも連携した環境教育や市民の保健リクリエーションの場所として活用してきました。もしこの地域の隣接地に風力発電が建設された場合、それによる環境破壊は計り知れません。

当会は決して風力発電を全否定するものではありません。しかし当該地の環境を鑑みればその環境保全が極めて重要な場所であると考えます。この様なことを勘案し、なにとぞ貴市がこの場所における風力発電計画を推進しないように要望いたします。

記

【風力発電建設の影響】

風力発電建設予定地は伊万里市ですが、機材の運搬は佐世保市側から行われる計画です。風力発電建設には大型の機材の運搬が必要になります。運搬のためには大型トレーラーやクレーンの通行のために道路幅が5m必要とされています。現在の県道や林道はカーブも多く道幅は3~4mです。

そのため道路の大規模な改修が必要になります。国見山はご存じの通り自然性の高い照葉樹林で、林道は大部分がこの中にあります。照葉樹林内は暗いので草本類は林縁付近のやや明るい場所(ソデ群落)に主に生育しています。道路の拡幅を行えば、林縁のソデ群落の全てとこれに続くマント群落も失われます。その結果、太陽光や風の侵入が顕著になり林内の乾燥化が進みます。地表層の乾燥により土壌性生物が減少すると当然昆虫類やこれらを餌とする鳥類の減少へつながります。このように二次的な捕食者もそれに伴い減少するという悪循環が起こります。

また、林道の脇には水の流れる場所があり、そこは希少種のカスミサンショウウオ・ブチサンショウウオ・タゴガエルの貴重な産卵場所となっていますが、これらも全て無くなるなど、佐世保市で最も豊かな森林生態系に多大な影響を与えます。

国見山周辺へ大型風力発電施設を建設することによる環境への圧力を考えると次の4つに要約されます。

- ① 風力発電機運搬路確保のための土地改変と照葉樹林の伐採
- ② 建設のための大規模な土地改変と森林伐採
- ③ 建設後の野鳥のバードストライクや飛行ルートの回避など渡りに与える影響
- ④ 優れた風景地である国見山一帯の景観への大きな影響

貴市が策定された「再生可能エネルギービジョン」は風力発電が二酸化炭素の削減に役立つとして、計画されています。しかし、環境保全は事業の計画段階で総合的に検証されなければなりません。

1) 国有林の公益機能の損失

風力発電機建設では森林の伐採と土地の造成が行われます。大抵の場合風力発電機1基につき1ヘクタールが必要で、風力発電機同士をつなぐ道路も作られますから相当の面積の樹木の伐採および土地の改変が行われます。

風力発電建設用地は国有林です。国有林は大きく次の4つの役割を持っています。

- ①木材の生産
- ②水源涵養や山地災害防止といった国土保全
- ③二酸化炭素吸収等の地球環境保全
- ④野生生物保護やリクリエーションなどの保健文化機能

風力発電建設予定地の一部は「佐賀県山地災害危険地区」に指定されており、大規模な土地改変は公益性を失うことにもなります。

2) 環境アセスメントの実態

貴市の大型風力発電プロジェクトの概要には『基本的に、大型風力発電設備の推進においては、騒音・超低周波音、動植物及び生態系、景観等の環境への影響がないことを前提に事業を進めていくことを認めるものとします。』とあります。

生態系保全に関しては、まとまりを持った単一または複合生態系を残すといった事業の立地・配置あるいは規模・構造に関わる環境保全のための措置が重要です。環境保全措置の検討に当たっては、環境への影響を回避し、又は低減することを優先するものとすべきです。

しかし、事業者は事業への負の影響を考え、本来は最後の手段であるべき代償措置を安易に採用します。特に希少植物については簡単に移植という手段がとられます。私たちの経験では植物は移植しても5年ほどで枯れる場合がほとんどで、環境配慮が完結出来たとは言えません。植物の大部分は、根において土壌微生物である菌根菌と共生していますが、移植はこの共生を断ち切ってしまうためです。

前述のとおり、風力発電機材の搬入に伴う道路拡張による生態系への影響は環境アセスメントを実施するまでもなく十分予測出来ます。また、後述します景観の悪化についても同様です。

環境アセスメントで環境に与える影響を回避することは出来ません。なぜならば現在行われている環境アセスメントはほとんどの場合事業を推進することが目的だからです。

例を挙げれば九州農政局が実施した諫早湾干拓事業の環境アセスメントがあります。この環境アセスメントの総合評価（抜粋）では、「もとより諫早湾を締め切る干拓事業計画は従来から環境保全には十分留意して・・・（中略）・・・諫早湾々奥部の消滅は、干潟域や諫早湾々奥部に生息する生物相の生息域や産卵場所などを一部消滅させるが、このことが有明海の自然環境に著し影響を及ぼすものではない。」とされています。

しかし、干拓事業完成後は、島原半島では泥干潟がなくなり既存の生物は急速に絶滅に向かっており、有明海のタイラギやアゲマキの不漁は干拓事業の影響と考えられています。これを見れば、事業本位の環境アセスメントは事業を進めるために行うもので環境を保全するものではないのです。

3) 建設後の生態系（渡り鳥）への影響

建設後の問題として、国見山系は日本列島を經由して大陸間を移動するハチクマ・アカハラダカ・ツル類などの希少な鳥類の渡りのルートにあたり、タカ類は林内での休息も確認されています。

6) 景観の阻害

国見山は長崎県の北松県立公園に指定され、30m以上の鉄塔などは主要展望地（国見山展望台）から4km未満の公園内では設置は認められていません。

風力発電計画は元々長崎県側も含まれていましたが、このような事情で伊万里市側に全てを建設するようになった経過をご存じでしょうか。

現在は国見山展望台からほぼ360度の風景が望めます。そこに風力発電が建設されると国見山の北西側に風車が立ち並びことになり風景を著しく悪くし

ます。また、国見山から北西及び南東へ連なる稜線に囲まれた世知原町は、一体として景観を形成しており、その中から見上げられる稜線は地域の景観に極めて重要です（囲繞景観）。そこに風車が林立することは地域の良好な景観に大きなダメージを与えます。



このような風景になることでしょうか

【最後に】

環境アセスメントを実施しても、この地域では解消できない景観の悪化や保全できない動植物などが発生することが明らかです。

貴市では「伊万里市再生可能エネルギービジョン」策定の際に隣接自治体に与える環境への影響を考慮されたのでしょうか。

風力発電建設予定地は国有林です。国有林野の管理経営においては、地域の国民の声を反映すべきとされています。

伊万里市が本事業を推進することは、「国有林を風力発電に利用させるべき」との強いメッセージとなってしまうのです。

以上

貴市の考え方を7月25日までに、下記の二団体に文書でご回答をお願いします。

なお、本要望書はふるさと自然の会のホームページやブログに掲載することを予めお知らせします。

ふるさと自然の会

会長 川内野善治

〒859-6405 佐世保市世知原町開作427

TEL/FAX 0956-78-2865

<http://www.5d.biglobe.ne.jp/~furusato/>

世知原の自然と生活環境を守る会

会長 藤田 信行

〒859-6403 佐世保市世知原町上野原2425-6

TEL/FAX 0956-78-2471